

夏期の病害対策について

本年は梅雨初期から降水量が多く、灰色かび病やべと病などの病害が多く発生しています。また、近年夏期は気温が高い傾向であるとともに、大型の台風が接近する機会が多く、病害による被害が拡大する恐れがあります。発生に注意し、速やかな防除に努めましょう。

1 発生の状況（7月1日発表 7月予報）

向こう1か月間において平年より多く発生すると予想される主な病害は、以下のとおりです。

作物名	病害虫名	発生面積（平年比）	発生量（平年比）
夏秋トマト	灰色かび病	やや多い	やや多い
白ねぎ（中山間地）	べと病	多い	多い
ナシ	黒星病	やや多い	やや多い
ナシ	黒斑病	やや多い	やや多い

（予報根拠等詳細は平成20年度7月病害虫発生予察情報参照）

2 防除の考え方

- 1) 発生が見られる圃場では、治療効果のある薬剤を散布した後、予防剤を中心としたローテーション散布へと移行するのが効果的である。
- 2) 薬剤によっては、夏場の高温時等に薬害を生じやすいものがみられるため、散布時間や天候、使用する展着剤の種類等を十分留意した上で散布を行う。
- 3) 台風の接近に際しては接近前と通過後に薬剤散布を行い、病害の拡大を防止する。

3 発生が予想される病害と防除対策（薬剤は一例）及び留意点

- 1) 防除薬剤は、作物によって使用できる薬剤が異なるので、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守し使用する。特に、混合剤の場合、異なる商品名で同一の薬剤成分が含まれる場合があるため、「成分総使用回数」を十分確認した上で使用する。
- 2) 病害は施肥量の過不足により発生が拡大する機会が多いので、適正施肥に心がける。
- 3) 過湿により発生が助長される病害については、排水対策などを十分に行う。
- 4) 薬剤は、大分県農林水産研究センター安全農業研究所ホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照する。なお、薬剤によっては、指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、薬剤のラベルに従って使用する。

（ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita/>）